

たまのよこやま



● 遺跡たより 73・74

● くろがね物語 (六)

● 保存科学室こぼれ話 (26)

● 2006 年度行事案内

写真：港区 NO.149 遺跡の櫓跡

所在地：港区新橋4丁目4番
調査期間：2005年9月～2006年1月
調査面積：350㎡

環二地区は、港区の北部に位置し、都市計画道路環状第2号線（新橋・虎ノ門約1.4km）を中心とした約8畝の市街地再開発事業に伴う調査です。この地域は、17世紀前半には池田家の屋敷として、17世紀後半以降幕末までは田村家屋敷として使用されていました。その屋敷内より2基の火の見櫓跡が発見されました。

右の写真は、「井桁」状角材基礎をもつ2号櫓跡です。角材基礎は、幅・厚さ30cm前後の角材を中央で繋いで7m弱の長さにしてあります。中央部の継手は、「追い掛け大柱継ぎ」と呼ばれる伝統的な手法で、横からズレを防ぐために「大柱」という角材を打ち込んであります。角材の交点部分には、幅9cm・長さ18cmのホソ穴が彫り込まれています。

表紙の写真は1号櫓跡で、「X字」状の基礎構造を持ち、2号櫓跡の北側から検出されました。丸太基礎の柱が乗る部分を平らに削り、柱の角を中心に向けて据えています。ただし柱自体が中心に向かって斜めに据えられている点は、2号櫓跡の柱と全じて、柱の底にはホソ穴が作り出されており、基礎のホソ穴にしっかりと嵌め込まれていました。

本事例については、約500m東に位置する伊達家上屋敷跡（汐留地区）から出土している遺構がよく似ており、共に火の見櫓の跡と考えています。

1月27日に見学会を行い、主に近隣の方々を対象として櫓跡を見ていただきました。
(五十嵐 彰)



4本の柱を持つ火の見櫓

所在地：日野市川辺堀之内・神明
調査期間：2005年6月～調査中
調査面積：約8,800㎡

本紙前号の表紙を飾った神明上遺跡の続報です。遺跡は、多摩川と浅川にはさまれた日野台地の東端にある、東西1.4km、南北1kmにわたる広大な遺跡で、これまでの発掘調査では旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良平安時代の遺構、遺物が出土しています。特に日野台地上には、奈良時代以降に多くの竪穴住居がつくられ、いくつかの集落が営まれていた様子がみられます。

一方、台地から低地にいたる崖線からは、古墳時代後期から奈良時代の墓のひとつである横穴墓が多数発見され、地点ごとに坂西横穴墓群・梵天山横穴墓群・谷ノ上横穴墓群と名づけられています。今回の調査では、台地西側梵天山横穴墓群から東側に続いて展開する谷ノ上横穴墓群に属する横穴墓が12基新たに発見されました。

横穴墓は、西側調査区（K区）で4基（左写真）、東側調査区（I区）で8基見つかри、西側調査区の3基（1・2・3号横穴墓）からは、それぞれ埋葬された人骨が発見されています（右写真）。これらの人骨については、丁寧に取り上げて国立科学博物館で鑑定中です。DNAが取り出せたらと期待しています。また、1号横穴墓からは、盤状杯といわれる底の平たい皿状の土器が3個、伏せた状態で見つかっています。ちょうど埋葬された人の頭の左脇に当たるところにあり、何らかの意図をもって副葬されたものとみられます。

東側調査区（I区）でみつかった8基の横穴墓のうちの6基は、北側の調査範囲外に玄室があり、墓前域と呼ばれる玄室にいたるまでの入り口にあたる部分の一部が調査されたのみで、玄室部分は工事で壊れないため、調査をせずに地中にそのまま残されることになりました。調査された4号横穴墓は、墓前域のみが掘られているもので、玄室を造るまえに礫層があたってしまったために途中で放棄しています。1号横穴墓の玄室内は石敷きですが、中央部分に石はありませんでした。天井部は陥没しており、玄室の中は土がかぶっていたためか人骨は残っていませんでした。11月12日の遺跡説明会では、地元の市民を中心に約500の方が足を運んでくださいました。（武笠 多恵子）



天井部がはずされた1・2・3号横穴墓



埋葬された二体の人骨

くろがね物語 一六一

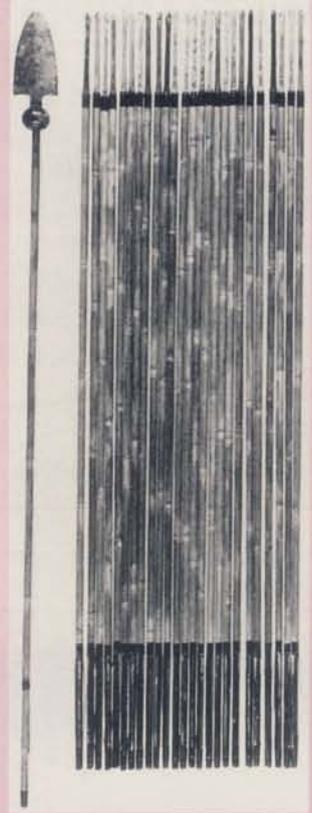
古代の武器 <上>

二回にわたり、鉄のやじりについて見ていきます。これは鉄鏃と呼ばれ、矢の先端部に装着して弓で射るための武器です。鉄鏃は弥生時代後期には出現しますが、本格的に普及するのは古墳時代になってからです。鉄鏃には様々な種類があり、奈良時代の文書にもその名称が記載されています。たとえば「鑿箭」・「加理麻多箭」・「斧箭」などがみられ、出土品や神社や寺に奉納された伝世品には、これに相当するものも多くあります。

かの源平合戦のおり、屋島で那須与一が敵方である平家の扇の的を矢で射た話は有名ですが、この矢は鏃矢といわれるもので、根元に飛ばすと音が出る仕掛けをもつ鳴鏃を付けたものでした。敵を威嚇するときや、儀式の際に用いたとされています。右の写真は正倉院に伝わる矢で、左端が鏃矢、他は征矢（実戦用）です。矢の本体である矢柄はおもに篠竹で作り、末端に鷹の羽などを用いて矢羽を付けます。また、矢を収納する容器を胡録といい、腰に下げて使用するものです。同じ機能をもつ鞆とは反対に、鏃の先端を下向きにしておさめるものです。

多摩丘陵の平安時代の村を発掘すると、なぜかこの鉄鏃が多く見つかりますが、おそらく、開墾した土地や村を守るための武装も必要だったのでしょう。

(松崎元樹)



奈良正倉院所蔵の矢
(['日本の武器・武具']より)

保存科学室こぼれ話(26)

関西方面の土器に見られる赤色顔料について

平成17年度の八王子市鍛冶屋敷遺跡の調査では、都道拡幅部分の約340㎡の調査区から縄文時代前期後半の諸磯b式土器を伴う住居跡一軒と集石や土坑などの遺構が出土しました。これらの土器の中には赤色顔料が施された地元の土器と関西方面の北白川下層式土器が見つっています。この土器の標式遺跡は、京都市北白川小倉町遺跡になります。

かつてNo.17号で紹介した京都造形芸術大学の岡田文男氏は、パイプ状ベンガラ粒子は、鉄細菌の生産物を燃焼した結果得られたものと述べ、珪藻類を含むのが特徴的であるとしています。今回は、これらの見解を検証する目的とあわせ、この北白川下層式土器に見られる赤色顔料の分析を試みました。

なお、追加資料としては、昭和57年に調査された多摩ニュータウンNo.753遺跡から出土した赤色顔料が明確な同時期の資料を使用しました。

分析の結果は、鍛冶屋敷遺跡出土の土器に付着した顔料は、やや赤色が弱く土色は2.5YR6/6でパイプ状物質は不明確ですが、珪藻類と塩素元素をもつ結晶が見られたのに対して、No.753遺跡の資料は、赤色顔料が明確で、パイプ状物質が見られました。今後は、これらの関西と関東のパイプ状物質が同様な環境で生成されたか否かなどについて検討を重ねてみたいと考えています。

(上條朝宏)



2006年度企画展示のお知らせ

今年度は「縄文人の暮らし」をテーマに一年間の企画展を開催しています。縄文人が一体どのような暮らしをおくっていたのか。最近の考古学の発掘成果が新しい事実を教えてください。多摩丘陵の遺物とともに、今回は特別に海浜部や低地の遺跡から出土したものも合わせて展示しました。ちょっとふりむいて豊かな縄文人の暮らしを体感してみてください。

今回の企画展に合わせて、新たに映画「縄文人の暮らし」(15分)も製作致しました。今までに「森と縄文人」などをご覧いただきましたが、今回の作品は縄文人の四季折々を通じて当時の生活ぶりをわかりやすく15分にまとめましたものです。

学校の授業やセンターの見学の際には是非ご鑑賞ください。また、センター内でも、ビデオブースにおいて、一般見学者の方々も自由にご利用いただけます。



2006年度 広報・普及事業のご案内

(一般は中学生以上)

行事名	対象/人数	日時	備考
文化財講演会	120名	①6/28(水) ②8/26(土) ③9/20(水) ④12/13(水) ⑤1/20(土) ⑥2/17(土)	14:00~16:00 無料
文化財講座	120名	①11/7(火) ②11/8(水) ③11/9(木)	14:00~16:00 無料
発掘調査発表会	120名	2/24(土)	13:00~16:30 無料
夏休み考古学相談室	小・中学生	夏休み期間中	10:00~16:00 無料 土・日を除く
縄文土器作り教室	①一般:30名 ②③共親子15組 ④一般:30名	①制作4/22(土)・23(日) 野焼き5/20(土) ②制作7/27(木)・③制作7/28(金) 野焼き②③共8/29(火) ④制作10/21(土)・22(日) 野焼き11/18(土)	制作 9:30~16:00 野焼き 9:30~15:30 往復はがきで申込み ①締切:3/31(金) ②③共締切:7/10(月) ④締切:10/10(火) 参加費 一般 500円 親子(一人) 300円
勾玉作り教室	①②親子:15組 ③④各30名	①8/24(木) ②8/25(金) ③11/23(祝) ④3/28(水)	9:30~11:30 往復はがきで申込み 締切り:①2/8/11(金) ③11/10(金)④3/16(金) 参加費 300円
耳飾作り教室	①②親子:15組 ③④各30名	①8/24(木) ②8/25(金) ③11/23(祝) ④3/28(水)	13:30~15:30 往復はがきで申込み 締切り:①2/8/11(金) ③11/10(金)④3/16(金) 参加費 300円
貝輪作り教室	30名	①②9/23(祝) ③④12/23(祝)	①③9:30~11:30 ②④13:30~15:30 往復はがきで申込み 締切り:①2/9/11(月) ③④12/11(月) 参加費 300円
編布(あんぎん)作り教室	30名	①②5/27(土) ③④7/22(土)	①③9:30~11:30 ②④13:30~15:30 往復はがきで申込み 締切り:①2/5/15(月) ③④7/10(月) 参加費 300円
考古学実習 一火おこし教室一	一般:10名 親子:10組	8/19(土)	①9:30~11:30 ②13:30~15:30 往復はがきで申込み 締切り:8/11(金) 参加費 500円
考古学実習 一縄文食教室一	一般:10名 親子:10組	10/28(土)	①9:30~11:30 ②13:30~15:30 往復はがきで申込み 締切り:10/13(金) 参加費 500円

